

令和4年度 学校評価一覧表

本年度の重点目標	★よりよい授業づくり 系統性のある教育課程の構築・PDCAサイクルに基づく改善・障害の多様化、重度化への対応・キャリア教育・ESD活動・食育の推進・現職研修、自主研修の充実・教師同士の連携・GIGAスクール構想の実現・教材データの共有 ★安全・安心な学校づくり マニュアルの精査・実効性のある訓練の実施・学校事故の未然防止・的確、迅速な対応・いじめ防止・居場所づくり・人権への配慮・個人情報管理・多忙化解消 ★開かれた学校づくり 保護者との協力体制の構築・関係機関との連携・地域教育資源の活用・校内、校外のサポート体制づくり・効果的な情報発信
----------	--

項目	部	重点目標	具体的方策	留意事項	評価	評価結果及び今後の課題（年度末）
よりよい授業づくり	小学部	新学習指導要領に対応した個別の指導計画の作成と活用。	・3観点に沿った計画・評価であることを意識して取り組む。 ・課題や改善事項等を設け、授業改善や引継ぎに生かす。 ・指導計画の作成のスケジュールや提示方法を含めて見直す。	・令和4年度からの新様式のため、保護者にも分かりやすく提示できるようにする。 ・年度初めに目標の提示がないため、学部内で随時啓発を行い、個々の意識を高めていくようにする。	B	・前期の記入の後に部の職員にアンケートを実施した。3観点に沿った計画・評価を意識できるという意見が多かった。 ・3観点の枠の分け方に難しさを感じる職員も多く、周知を図る必要性もみえてきた。 ・年度当初に職員に対して書式の説明をする時間が十分に確保できなかったため、来年度は時間をとって丁寧な説明を行っていきたい。 ・作成のスケジュールについては、自立活動は評価の回数や時期を見直していくことになっている。他の教科については来年度は本年度と同様にし、よりよい評価の方法を考えていきたい。
よりよい授業づくり	中学部	自立活動における時間の指導の充実。	・新しく起こした時間の指導について、グループの分け方、指導内容等について検討する。 ・校務支援システムなどを有効に活用して、適宜情報交換を行えるようにする。 ・学年会、部会の時間を中心に話し合いを行い、問題点を解決していく。 ・校内研究で作成している学習内容表の改善を行う。	・中学部全体での検討になるようにする。 ・帯時間で行き組む時間の指導との取組の違いが明確になるような年間計画を作成するようにする。	B	○評価結果 各学年・重複学級において、生徒の実態に基づいた学習グループを編成し、自立活動の指導段階表を用いることで課題を確認しながら取り組むことができた。また、情報共有の手段として、部会や学年会を活用したり、課題や手だてを確認し活動内容を記録する個別ファイルを用いたり、部やグループ単位で担当者間の連携が図られるように努めることができた。 ○今後の課題 教員配置に限りがあるため、自立活動の時間の指導において生徒一人一人の課題と目標に対し、個別性を重視しきれない面もあった。教育活動全体において自立活動の学習内容の充実を図るためにも、より一層の学年や部としての情報共有や教材開発に尽力したい。
開かれた学校づくり	高等部	農福連携と地域力を活用した教育活動(キャリア教育)の推進。	・本校を起点とした「農福連携会議(ドリームプロジェクト)」を定期的に開催し、関係機関の横断的な連携の充実を図る。 ・令和3年度も利用した青年の家の畑を「ユニバーサル農園」として新たに立ち上げ、地域力を活用してその充実を図る。 ・農福連携と作業学習をリンクさせて、作業内容の充実と作業班間の系統性を高める。	・農福連携の推進にあたっては、ファシリテーターを中心に、高等部全体でより組織的な実践を行う。 ・作業学習に特化した取組にとどまらず、領域・教科を横断的にとらえた取組を行う。 ・SDGsの理念に基づき、生徒の障害や特性に応じた課題設定を行う。	B	・農福連携会議との連携を通して実施した法性寺ねぎの栽培活動では、ユニバーサル農園も活用して小中学部の希望学級と取り組むことができた。地域の方々に本校の児童生徒の全体像を理解していただく絶好の機会となった。 ・社会福祉協議会からの提案でJALホテル名古屋との連携活動を進めている。生徒が思いのままに製作したものが評価され、次回の製作意欲につながっていくことを期待している。 ・園芸班と他班の連携について、他班の活動の特性もあるため効果的な連携方法を模索しながらの一年だった。コロナ禍により販売活動の見通しがもてないことも踏まえ、活動計画の見直しも必要と考える。
安全・安心な学校づくり	指導安全	いじめの早期発見と丁寧な対策。	・年間2回のいじめアンケートを実施する。 ・アンケート結果を受けて、いじめの予兆があった場合は個別に、丁寧に対応する。	・アンケート結果や情報の扱いは、児童生徒の人権に配慮し、慎重に丁寧に対応する。 ・必要に応じて、いじめ不登校対策委員会を開催し組織的に対応する。適宜、スクールカウンセラーなどの関係者、関係機関とも連携する。	B	・いじめアンケートから兆候を発見でき、職員間の連携を図りながら素早い対応ができた。繰り返し啓発したことで、職員の意識も高まったように思う。引き続き、早期発見早期対応ができるようにしていく必要がある。
安全・安心な学校づくり	教頭	勤務時間の適正な管理。	・勤務時間と休憩時間のけじめをつけた勤務を心がけ、習慣づけていく。 ・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を推進する。	・会議時間の延長や、休憩時間の業務設定など、休憩時間や勤務時間外に業務を設定しないことを全職員で心がけていく。 ・休憩時間の変更に伴う課題(個別懇談会など)の検討を行う。 ・行事等の学校業務のスリム化を、年間を通して検討・推進していく。	A	9月から1月までの超過勤務に伴う勤務振替の回数は、会議13(ケース会等の臨時会議を含む)、行事13、生徒指導関係12(登下校指導、生徒指導会議を含む)、部活動3(打合せを含む)、保護者対応5(懇談会を含む)であった。行事の事前準備や片付け、打合せが多いが、反面、部会等の定例会議の延長は最小限にとどめていると感じる。勤務振替のデータ入力は課題の洗い出しに有効であり、次年度以降も継続していく。みあいピックとみあいフェスタをR6年度から隔年開催することを決定した。行事の在り方を検討するとともに、丁寧な保護者説明で理解を得ていきたい。

項目	担当	重点目標	具体的方策	留意事項	評価	評価結果及び今後の課題
よりよい授業づくり	総務	確かな学習支援が提供できる効率的な体制の整備。	・倉庫内の教材教具を職員間で共有し、有効利用できるように、お役立ちカタログ(=教材教具の一覧データ)の活用を推進する。 ・お役立ちカタログの更新及び、倉庫内に整理整頓して置かれているかのチェックシートを作成する。	・新転任の職員向けに本校の教材教具活用についての資料を配布する。お役立ちカタログをより便利に使える方法を伝え、全職員が有効利用できるようにする。 ・倉庫内の整理方法を具体的に提示し、学期ごとにチェックシートを使用して確認する。	B	・新転任者の職員に向けて、「お役立ちカタログ」の活用方法をレクチャーし、約20名が参加した。 ・教材庫に保管されている共有教材を定期点検する「点検表」を作成し、次年度から活用できるようにする。担当者については、保健体育部が計画する定期清掃担当者として兼務する。
よりよい授業づくり	教務	45分授業を踏まえた日課表の実施と改善。	・初めに、改めて職員や保護者に共通理解を図ったうえで実施する。 ・前期の実施を受け、アンケート等で意見を伺う。 ・すぐに改善可能なものは後期から、時間の必要なものは次年度に向けて検討を行う。	・年度当初の職員会議や保護者会で周知を図る。 ・意見を伺う前に、勤務体制やスクールバスなど変更可能なことと不可能なことを確認しておく。 ・変更時期の早いスクールバス等については、早々に検討を始める。	B	・職員アンケートを実施し、多くの改善案を集約することができた。アンケートでの集約した意見や知的教務主任者会での各校の状況を参考に、授業開始時刻の改善案について教務主任者間や校務部会で協議した。集約した課題点を改善できるよう、継続して協議を行う。

安心・安全な学校づくり	指導安全	防犯・防災体制の充実。	・様々な条件で避難訓練を実施する ・防災物品の充実	・壁の崩壊、けが等やパニックになって動けなくなった児童生徒への対応など、想定される状況を複数考えて実施する。 ・ヘルメット、ネットランチャーなどの防災・防犯用品の設置を検討していく。	A	・訓練では、反省を基に新たな想定で実施した。マニュアルどおりではなく、状況に応じて判断して避難が出来ているとの反省があった。事前の準備が大切だとの意見もあった。取り組みをととして、職員の意識を高められた。 ・寄付金により、特別教室へのヘルメットの配置、カセット式発電機（ガスカセット含む）も準備できた。
よりよい授業づくり	進路支援	進路指導における職員の専門知識の向上。	・自主研修会を実施する。 ・進路指導に関するアンケートを実施し、職員のニーズを聞きとる。	・職員へのアンケートをからニーズに応じたテーマで研修機会を設定する。 ・校務部会の職員全員で研修内容を確認したり、研修を分担したりして知識を広める。	A	11月に自主研修会を実施した。グループウェアでアンケートをとることで職員のニーズや研修会後の反省を知ることができた。また、教員から研修会で得た知識をクラス全体や個別の進路指導で生かせたという報告もあった。中学部では、教務主任（中）と連携し、夏季休業中に2回の進路に関する自主研修会を実施した。自主研修会は、すべてのニーズに応えられたわけではないので、今後、回覧等で情報を啓発していくことも必要かもしれない。
開かれた学校づくり	支援	センター的機能としての役割の充実。	・小学部の居住地域での交流活動において本校職員と一緒に活動する。 ・巡回相談の内容について校務部会にて検討する。	・居住地域校交流では、相手校との連携を取り、一緒に授業を行い、具体的な支援方法について伝える機会とする。 ・巡回相談では、校務部会の時間を利用し、相談内容の検討を行う。また、巡回相談の様子等を支援部職員に回覧等を利用し、情報提供を図る。	B	・居住地校交流の活動内容を事前に詳しく知ることが難しかったため、支援グッズを事前に準備できないことも多かったが、本校の職員がその場で具体的な支援方法をアドバイスするなど、主体的に参加できた。 ・巡回相談の相談内容を校務部会で検討したり、巡回の報告をしたりできた。主任以外にも3名の職員が巡回を経験し、地域の現状を知ることができた。
よりよい授業づくり	研修	職員の専門性を高める研修の実施。	・職員のニーズを知り、専門性の向上につながる実践的な研修を計画する。 ・各校務分掌と連携し、夏季研修、自主研修の機会に研修を設定する。 ・研修に参加しやすい方法を検討し環境を整える。	・前年度に行った研修に関するアンケートを基に内容を検討する。 ・研修項目に関連した校務分掌に研修を依頼し、研修の具体的な内容や時期について話し合う。 ・少人数でのグループ研修や動画での保存、場合によってはオンラインなど様々な方法を検討する。	A	・アンケート結果を基に、職員のニーズに合わせた内容を計画することで、参加者の満足度が高く、専門性の向上につながる研修を実施できた。また、研修動画を保存することで、時短勤務者などにも研修の機会を広げられた。 ・来年度以降は、各分掌に計画的に研修を依頼し、研修の運営の効率化も進めていきたい。
よりよい授業づくり	情報図書	GIGAスクール構想の実現を目指したICT機器の活用。	・学校配備の機材を授業や学校生活の中で有効的に活用する ・分掌間で連携し、研修の機会を設定する。	・県整備のGIGAスクール端末を使い、授業などで活用できるアプリケーションを積極的に利用していく。 ・学期内、長期休業中の職員向けの研修を設定する。またみあいワークショップなどでも活用する方法を発表する。	A	・校内で感染症の拡大があったため、学級での活動が増え、結果的にGIGA端末の利用頻度が増えた。 ・みあいワークショップで外部講師を招いてimovieの使い方の講義を行った。また、職員が講師となり、GIGA端末のアプリケーションの使い方を講義した。 ・個人情報をより確実に保護するために、個人の携帯端末の使い方や写真撮影についてのガイドラインを策定した。来年度から運用していく。
安心・安全な学校づくり	保健体育	ICTを活用した保健教育の実践と保健管理の充実。	・より多くの児童生徒が落ち着いて検診を受けられるように保健教材を活用する。 ・緊急時に誰でも対応に当たることができるように研修の機会を設定する。	・保健教材の保存場所や利用方法を周知する。 ・学期に1回程度、学年会等の時間を利用して緊急時の対応の流れを確認する。	A	・アンケートの結果から、昨年度よりも多くの学級で教材を活用してもらうことができた。また、事前学習を行ったことで落ち着いて検診を受けることができた事例が多数あった。 ・緊急時対応訓練計画を提案し、2学期より実施することができた。報告書の提出が徹底できていないため、再度周知していきたい。実施した訓練内容をまとめ、年度末に全職員にフィードバックし、学校全体の安心安全に対する意識を高められるようにしたい。
よりよい授業づくり	自立活動	確かな学習支援が提供できる体制づくり。	・自立活動に関する相談窓口を設ける。 ・愛知県三河青い鳥医療療育センターとの連携を推進する。	・相談の受付から、対応についてマニュアル化する。 ・愛知県三河青い鳥医療療育センターと連携し、職員、保護者のニーズに合った講演会、作業療法士によるケース会や個別相談会を企画・運営する。	A	・抽出自立活動の希望など様々な相談が多く寄せられ、中でも愛知県三河青い鳥医療療育センターコーディネーターを招いての個別相談は3件、自立活動部対象の相談会は学期ごとに実施できた。 ・講演会は職員と保護者対象の2回実施され、事後のアンケートでは次年度も依頼したいとの意見が多く聞かれた。ケース会について小、中学部を中心に実施され、アドバイスはその後の支援に生かされている。来年度も継続したい。

学校改善のための評価項目(学校関係者評価)				評価	評価結果及び今後の課題
よりよい授業づくり		・新学習指導要領を意識した年間指導計画の作成や授業の展開を行い、各研修を通して資質を高める。 ・45分授業の日課表の検討と定着、及び教育課程の再構成を積極的に実践する。 ・ICT機器を活用した教材の作成と活用、情報共有を推進する。		A	自立活動の指導や学習評価についての検討を行った。また、今年度からスタートした45分授業では、様々な意見や課題が出てきている。次年度も継続して検討を続けていく。各校務で校内アンケートを積極的に行い、意見集約を効率的に行うことができている。
安全・安心な学校づくり		・実行性の高い訓練の実施や、防災への備えを推進する。 ・合理的配慮を意識し、人権に配慮した児童生徒への指導や学習活動の展開に努める。 ・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を推進する。同時に、けじめをつけた勤務設定を習慣付ける。		A	実際の災害時を想定した避難訓練の実施や、緊急時対応訓練計画の作成、防災物品の購入など、災害時や緊急時の備えをより一層充実させることができた。心療内科の医師やSC、療育機関のコーディネーターなどを招いた現職研修を行い、児童生徒に接する基礎的な心構えについて多様な観点からの学びを得ることができた。次年度は大きな行事の見直しに向けて、計画的に業務改善を進めていきたい。
開かれた学校づくり		・各校務における横のつながりを意識するとともに、関係機関との連携を生かし、高い教育効果を得るように努める。		B	感染状況への配慮はあったが、居住地校交流や農福連携を積極的に行うことができた。地域からの校内見学等の依頼が多くなってきており、地域に開かれた、地域に根付いた学校づくりを今後も積極的に推進したい。